

PRAEVIDENTIA DAILY (3月30日)

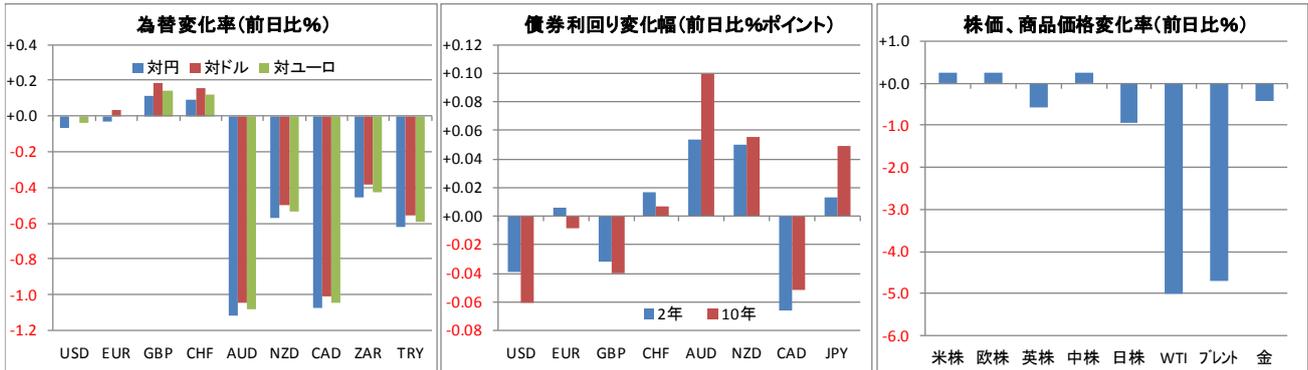
昨日までの世界：イエレンよりイエメン？

先週金曜は、イエメン情勢緊迫化を受けて前日に上昇していた原油価格が、イエメン情勢の原油価格への影響は限定的殿見方が強まり反落したのと共にカナダドルが反落し、豪ドルやNZドルもつれ安となったのが特徴的だった。他方、ドル/円相場は概ね119円台前半でほぼ横ばいの動きに留まった。Yellen・FRB議長はFRBが金融緩和解除開始を真剣に検討していること、インフレ率が2%目標に近づくまで利上げを見送るのは賢明ではない、経済状況の改善が継続すれば、年内利上げは正当化され得る、等と発言し、概ねこれまでの発言と同じだが、相対的に利上げが強調された内容で、タカ派的と解釈されたようだが、市場の反応は限定的だった。

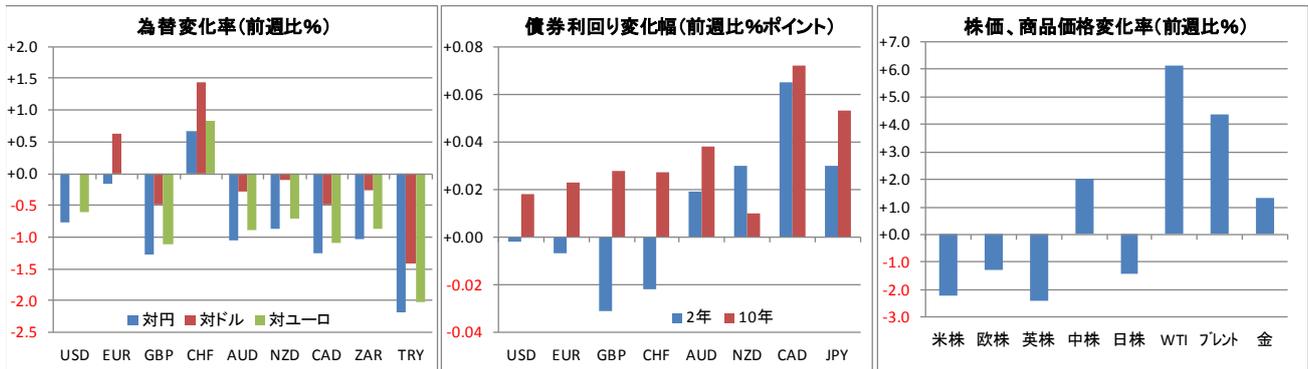
この間、日米経済指標発表への市場の反応も殆どみられなかった。本邦では総合CPIが前年比+2.0%と、消費税の影響(+2.0%ポイント)を除くとゼロ%へ低下、市場予想を下回った一方、全世帯家計調査消費支出は前年比-2.9%と前月および市場予想と比べマイナス幅が縮小するなど、まちまちだった。米国では、4QGDP前期比年率確報値は+2.2%と、市場が想定していた上方修正が実現せず前回から横ばいに留まった一方、ミシガン大消費者信頼感指数確報値は93.0と前月は下回ったものの速報および市場予想を上回った。

ユーロ/ドルは、ギリシャの財政構造改革案が27日中に提出され、30日にもトロイカと協議の上詳細を固める方針のようだが、27日はむしろ、Varoufakisギリシャ財務相が辞任するとの独Bild紙報道を受けて一時下落したのが特徴的だった。ユーロ/ドルは1.087ドル近辺から一時1.08ドル丁度へ下落したがその後ギリシャ政府筋が辞任予定はないとしたことから反発したようだ。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



主要通貨、債券利回り、株価の前週末比変化



きょうの高慢な偏見：米コア PCE が下振れないことを確認

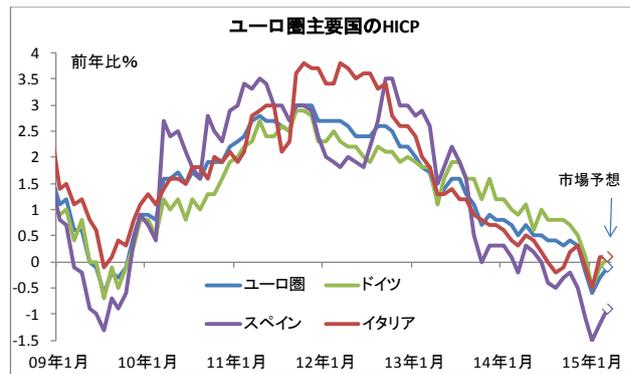
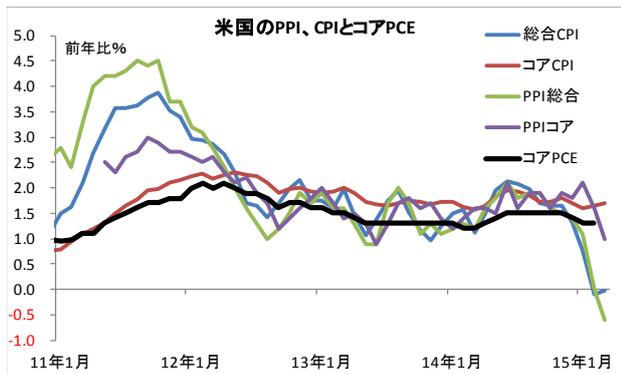
きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 2 月 鉱工業生産・前月比	8 : 50	+3.7%	-1.8%	
スペイン 3 月 HICP 前年比	16 : 00	-1.2%	-0.9%	2 か月連続上昇の予想
ドイツ 3 月 HICP 前年比	21 : 00	-0.1%	+0.1%	2 か月連続上昇の予想
米 2 月 個人所得・前月比	21 : 30	+0.3%	+0.3%	
同個人支出		-0.2%	+0.2%	
米 2 月 コア PCE デフレーター・前年比	21 : 30	+1.3%		FOMC 物価目標は 2%
米 2 月中古住宅販売成約件数・前月比	23 : 00	+1.7%	+0.4%	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日はスペイン、ドイツの HICP および米国のコア PCE デフレーターが注目される。ユーロ圏では前月 2 月分でエネルギー価格主導でインフレ率の持ち直しがみられており、3 月分も更に上昇が予想されており、これ自体は景況感の改善傾向と共に ECB の追加緩和の必要性を後退させ、ユーロ高要因だが、現時点では ECB 量的緩和の中長期債利回り低下のユーロ押下げ効果が勝り、下落基調にある状況で、あまり材料視されないだろう。

米国では、コア PPI が低下してきているもののコア CPI は安定して推移しており、コア PCE デフレーターも前月と同程度に留まれば、利上げ開始が遅れない、との見方に繋がりドル下支え要因だ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641